



【鹿児島島の賊軍熊本城激戦の図】
錦絵 制作年不明
(国立国会図書館蔵)



西南戦争当時の
熊本洋学校教師館
「ジェーンズ邸」



移設された「ジェーンズ邸(日赤記念館)」に
建てられた「愛の手とこしえに」モニュメント
日本赤十字社創立100周年記念
(※ジェーンズ邸は熊本地震で崩壊。
現在、熊本市において再建について検討中。)

日赤発祥 ゆかりの地



【田原坂の戦斗(西南の役)】
T.UCHINO 制作年不明
(日本赤十字社蔵)



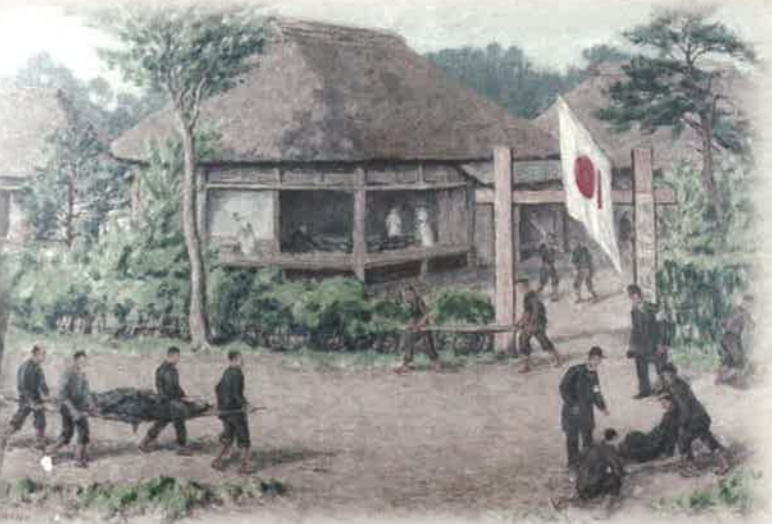
田原坂公園



征討総督有栖川宮御營戦址からの展望。田原坂、二俣台地と正念寺周辺地域(玉東町)



佐野常民



【博愛社救護所】 T.UCHINO
制作年不明(日本赤十字社蔵)

どこか似ている誕生秘話 日本赤十字社 と 国際赤十字

キエザ・マジョレ教会前絵画



アンリー・デュナン



日本赤十字社発祥ゆかりの地をめぐる



熊本城



西南戦争薩軍総攻撃の3日前、明治10年(1877年)2月19日午前11時頃、御天守御廊下付近から出火し、天守閣と本丸御殿(ほんまるごてん)一帯が全焼してしまいました。出火原因はいまだに謎に包まれています。
所在地:熊本市中心区本丸

田原坂公園



田原坂公園は、西南戦争で17日間戦いが繰り返された田原坂の戦いの場です。激戦の跡が生々しい「弾痕の家(復元)」や「西南戦争資料館」が当時の戦いを今に語り伝えています。いまではツツジや桜の名所として知られる美しい公園として親しまれています。
所在地:熊本市区植木町豊岡

日赤記念館(ジェーンズ邸)



明治4年に熊本洋学校教師ジェーンズ邸として建てられました。西南戦争時には、征討総督本営が置かれ、佐野常民が有栖川熾仁親王へ「博愛社」設立の請願を直訴して許可を受けた場所です。現在、「日赤記念館ジェーンズ邸」。県指定の重要文化財。
所在地:熊本市中心区水前寺(※熊本地震で崩壊。現在、熊本市において再建について検討中。)

「愛の手とこしえに」モニュメント



西南役戦没者慰霊之碑
西南の役で戦死された官軍6923名、薩軍7186名、殉難者29名の御霊の安らかなんことを願って建立されたものです。多くのラストサムライが散ったこの場所は、戦争のない平和な世界と、赤十字の人道的使命を祈ることができる場所として、年間を通じて多くの人々が訪れます。



田原坂崇烈碑
田原坂の戦いのような激しい戦いは他にはなかったこと、もし薩軍が北上したら測り知れない禍があったことなど官軍の立場からの勝利の意義が述べられています。(熾仁親王撰分並篆額)



美少年像



田原坂(一の坂)



弾痕の家

日本赤十字社発祥の地の碑

昭和51年12月1日、日本赤十字社発祥の地の木標があった場所に、建てられた石碑。玉名市長橋本二郎書。裏面には、「勅令を奉じて戦況を見に来た佐野常民氏は、仮県庁で富岡敬明権令と会い、悲惨な戦傷者の救護をするため博愛社設立について徹夜で相談した。…古老の話でこの場所に日本赤十字社発祥の地の木標が建てられた。」と伝えています。



日本赤十字社発祥の地の木標

弥富村村長(塚本平次氏)が18歳の頃、仮県庁で佐野常民から名刺を預かり富岡権令(知事)に取次いだという話を、光蓮寺(多田氏)から元弥富小学校校長(岩尾氏)を経由して玉名高等家政女学校校長(寺本直樹氏)に伝わり、後に、佐野子爵家に確認し事実であることがわかり、木標(写真右奥)が建てられました。



玉名女子高等学校 (旧玉名高等家政女学校)

幕末細川藩高瀬支藩邸があった場所で、その後岩崎原小学校となり、西南戦争の際には3月25日から4月18日まで仮県庁が置かれていた。佐野常民がここで会社の事務を開き、仮県庁・裁判所と同一の家屋で博愛社事業の端を興したと伝えられています。
所在地:玉名市岩崎

西郷小兵衛 戦没の地碑

西郷隆盛の末弟。西南戦争で薩軍第一大隊第一小隊長を務め、1877年2月27日、肥後国高瀬河南（現在の熊本県玉名市）の戦いで官軍の銃弾を受けて戦死した。享年31。
所在地:玉名市



光蓮寺



軍団病院の一つ。
所在地:玉名市三ツ川(高瀬町から移転)

光行寺



細川家の参勤交代の休憩所であった寺。隣に下岩官軍墓地がある。
所在地:和水町

官軍兵の墓石

お寺の裏に官軍兵の墓4基があり、墓石の裏には出身地のほか高瀬病院と刻まれています。戦死した官軍兵の名前は靖国神社の名簿とも一致しています。



標語額

お寺の本堂にしっかりと「気づき、考え、実行する」という青少年赤十字のスローガン(態度目標)が掲示してあります。



正念寺



弾痕の残る門

正念寺は、田原坂の戦いの戦傷者の救援で最も重要な役割を担いました。官軍病院として活躍したのは、3月3日から4月24日までですが、その後も負傷者があふれ、地元医師たちにより治療が続けられました。この地域に担ぎ込まれた多数の戦傷者の悲惨さや日増しに続く必死の救護活動が博愛社の誕生に繋がりました。
所在地:玉東町

高瀬病院と刻まれた墓石

当時、高瀬には延久寺、光蓮寺等7カ所の病院があり、記録によると一時期2千名の戦傷者が収容されていました。夜になると傷ついた兵士は「おっかさん」と声を出して泣いていたと云います。患者は、高瀬から、久留米、長崎、大阪などに搬送されました。

官軍病院と墓地

徳成寺の右側にある道を登っていくと宇蘇浦官軍墓地があり田原坂、横平山などで戦死した官軍兵士347人が埋葬されています。



徳成寺

官軍の包帯所が置かれていたところで、戦況視察に訪れた元老院議員佐野常民が、町医者の昼夜の献身的な行為に感激し、「博愛社」の結成を決意したとの話が伝えられています。
所在地:玉東町



日赤発祥の地の碑

この石碑には、「明治十年、西南役之田原坂戦二際シ、官軍八月中旬、木葉ノ徳成寺、正念寺、境木ノ民家二大小ノ包帯所ヲ設ケ戦傷兵ノ治療ニ当ルモ軍医ノ員数不足、コレヲ知リタル木葉ノ宗、田尻、安成ノ三開業医八直ニ其ノ門弟ヲ率イテ来リ軍医ヲ援ケ日夜将兵ノ手当ニ従事ス、偶戦況視察ニ来レル元老院議員佐野常民、大給恒ノ両氏八町医者ノ献身的ナル行為ニ感激シ、博愛社ノ結成ヲ決意シ、五月三日、征討総督有栖川宮熾仁親王ニ願出ツ 即日許可セラレタリ、博愛社八後ニ日本赤十字社トナリ ソノ病院モ二十年、日本赤十字病院ト改メ、陸軍々医総監橋本綱恒コレガ初代院長トナル。実ニ木葉八日赤発祥ノ地ナリ」と書かれています。

承久寺(現延久寺)



軍団病院の一つ。
所在地:玉名市高瀬

繁根木八幡宮



官軍の本営跡
所在地:玉名市繁根木

拜聖院



西南の役 細川藩医師集結の地

この地で、1877年2月23日、嶋野崇巴は、薩摩軍熊本隊隊長の池辺吉十郎から薩摩軍の治療を依頼され、敵味方の区別無く治療することを条件に引き受け、藩医の河喜多宗儀、黄玄風、原田早春、村上又五郎、松岡独醒庵、狩野庄馬、村井同吉らと8名で早速治療を開始しました。日本の赤十字活動発祥の地と言われています。
所在地:熊本市北区室園町

亀甲山光照寺



嶋野崇巴は、戦傷者の増加で病室が手狭になると近くの梅木小学校、亀井の光照寺、民家41戸を借り上げて、同所には桑島見龍、松田喜福、池邊健寿、林強の4医師を置いて治療しました。
所在地:熊本市北区清水亀井町

博愛灯会



玉東町で毎年開催される、西南の役の際の戦死者の鎮魂祭。

薩軍病院跡



植木町木留には薩軍の本営地がありました。3月4日における吉次峠の戦いで薩將の篠原国幹が狙撃された後、この薩軍病院に搬送された後亡くなったといわれています。
所在地:植木町木留



西南の役で征討総督有栖川宮熾仁親王殿下が、兵站基地である高瀬から、この木葉城跡の台地にしばしばおいでになり、御督戦に努められたと伝えられています。大きな石碑には、細川護立(ほそかわもりたつ)侯(細川家の16代当主で、日本赤十字社近衛忠輝社長の祖父)の書で「征討総督有栖川宮御督戦跡」と彫っており、台座には詳細な説明が刻まれています。
所在地:玉東町

延寿寺



薩摩軍は、田原坂の南側に陣を張り、民家などを利用した薩軍病院で初動救護を行い、重症者は薩軍の兵站基地である熊本市南端の川尻町に搬送され、野戦病院118箇所で行われました。手術を行う後方基幹病院が川尻町の延寿寺でした。
所在地:熊本市南区川尻



嶋野崇巴胸像
細川藩外科医師
嶋野崇巴(八世)

本堂

ここで、8名の医師により高度な手術が行われていたといわれています。



木札

延寿寺に残る西郷菊次郎が寄付した金拾円の板。



西南役薩軍 戦没者墓

三州会(薩摩・大隅・日向)により、薩軍戦没者の慰霊碑が建立され、毎年慰霊祭が行われています。



薩軍本営並野戦病院跡

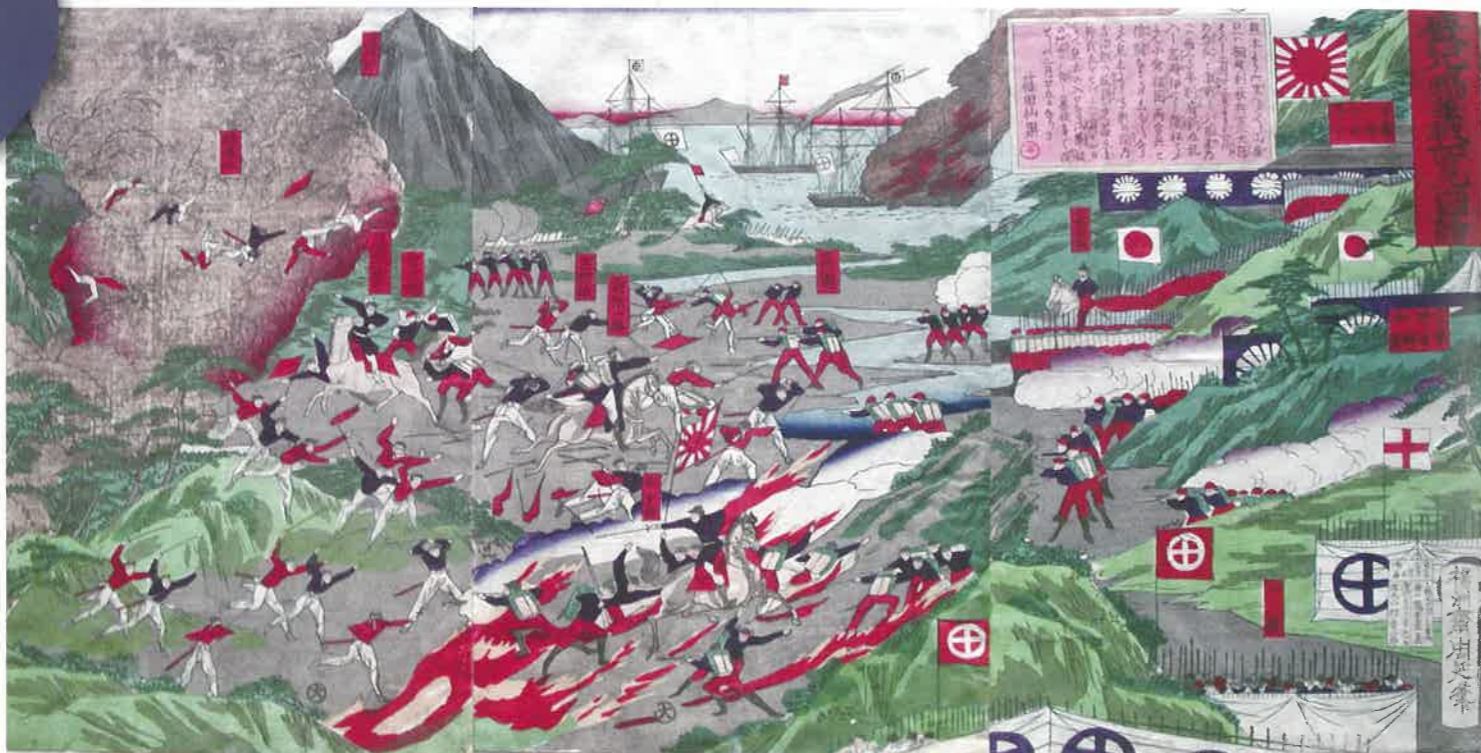
各地から運ばれた薩軍の戦病没者850余名がここに埋葬されました。



皮肉にもきっかけは壮絶な戦争だった…

日本赤十字社

西南戦争〈田原坂の戦い〉



「鹿児島争戦一覽図」楊洲奈周延(正念寺蔵)



官軍の田原坂攻めの拠点となった豊岡の眼鏡橋



西南戦争とは、明治維新後の1877年(明治10年)におきた西郷隆盛率いる「薩軍」と日本政府討伐軍「官軍」の戦いです。2月15日の西郷隆盛の挙兵に始まり、2月19日の熊本城炎上、熊本城強襲、高瀬大会戦、田原坂の戦い、そして植木や大津、人吉の戦いへと続きました。最後は九州山脈を越え9月24日、鹿児島島の城山で西郷隆盛が自決し、官軍の勝利により終焉しました。

中でも田原坂は、熊本城を目指す官軍と薩軍が、3月4日から17日間も一進一退を繰り返した西南戦争最大の激戦地となりました。当時、戦傷者の救護の必要性を訴えていた元老院議員の佐野常民は、田原坂の戦いをきっかけとして、明治政府に日本赤十字社の前身となる「博愛社」設立を請願しました。

国際赤十字

イタリア統一戦争〈ソルフェリーノの戦い〉



「ソルフェリーノの戦い」(赤十字博物館蔵)



国際赤十字発祥の地ソルフェリーノの丘



ソルフェリーノの戦いとは、第2次イタリア独立戦争中の1859年6月24日、イタリア北部ロンバルディア地方のソルフェリーノを中心に行われた戦争です。ナポレオン3世率いるフランス帝国軍とヴィットーリオ・エマヌエーレ2世率いるサルデーニャ王国軍の連合軍が、フランツ・ヨーゼフ1世率いるオーストリア帝国軍と戦い、フランス・サルデーニャ連合軍が勝利しました。

この戦いの後、フランスとオーストリアの間で和平条約が結ばれ、オーストリアはイタリアに対する影響力を喪失しました。この戦いの現場に遭遇したアンリー・デュナンは、戦場の惨状に強い衝撃を受け、「ソルフェリーノの思い出」と題した書籍を出版、これが赤十字の設立へとつながりました。

1人の不屈の精神が赤十字を起こした...



フローレンス・ナイチンゲール

1854年
クリミア戦争の救護活動で活躍。
赤十字創設の指針となりました。

日本赤十字社

日本赤十字社の父 〈佐野常民〉

佐野常民は、1822年(文政5年)12月28日、佐賀藩(現佐賀市)の武家の5男として生まれ、8歳の時に佐賀藩医である佐野常徴の養子となります。佐賀藩校・弘道館をはじめ数々の塾に入門し、医学のほか幅広い学術をおさめました。32歳で長崎海軍伝習所に参加し、佐賀藩主鍋島直正へ海軍創設の必要性を説き、三重津海軍所の責任者となり蒸気管(ボイラー)を製作しました。日本初の蒸気船「凌風丸」の造船等も行いました。その後、44歳の時、パリ万国博覧会に参加した際、国際赤十字の組織と活動を見聞しました。50歳の時はウィーン万国博覧会の団長としてウィーン万博に参加し、帰国後に元老院議員に就任しました。

そして文明開化に向けて奮闘しているさなか、1877年(明治10年)2月に西南戦争が勃発しました。

常民は、ヨーロッパで学んだ敵味方の区別なく戦場で負傷した将兵を看護する赤十字の知識を元に、大給恒(おぎゅうゆずる)と共に博愛社設立の請願書を持って動き出します。しかし、政府からは不許可の指令。先を急いだ常民は、5月1日、熊本城内の征討総督本営を訪れました。そして参軍山縣有朋の賛同を得て、征討総督有栖川宮熾仁親王殿下のご英断により、その日のうちに日本赤十字社の前身となる博愛社設立許可の命令が下されました。



赤十字のような事業が盛んになることをもって、文明開化の証としたい。

博愛社設立に動いた5人



さの つねたみ
佐野 常民
(国会図書館蔵)

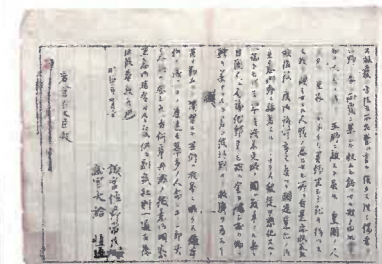
おぎゅう ゆずる
大給 恒

いわくら ともみ
岩倉 具視
(国会図書館蔵)

やまがた ありとも
山縣 有朋
(国会図書館蔵)

あひすがわのみやたるひとしんのう
有栖川宮 熾仁親王

博愛社設立の請願書



明治10年4月6日に提出。
同年4月23日に不許可となる。



「博愛社創設許可の図」(日本赤十字社蔵)
1877年(明治10年)5月3日
博愛社設立許可の舞台となった部屋



1877年(明治10年)5月1日
山縣有朋の請願により許可の命令が下る。
「ジェーンズ邸(熊本洋学校教師館)」

国際赤十字

国際赤十字の父 〈アンリー・デュナン〉

アンリー・デュナンは、1828年5月8日にスイスのジュネーブで生まれました。カルヴァン学校に入学しましたが、学業は思わしくなく途中で退学しました。その後、21歳で銀行員となり、仕事の傍ら、キリスト教活動や、YMCA世界大会の開催へ向けて精力的に動く中、アルジェリアへの出張を命じられました。そこで、迫害を受けている現地の人々を見て、彼らの生活を助けるため銀行を退職し、アルジェリアで農場と製粉会社の事業を始めました。しかし、水の不足で事業は軌道に乗りませんでした。そこで、水源利用の権利を嘆願する直訴状を作成して、ナポレオン3世のもとへと向かったのです。

1859年、ナポレオン3世に会いに行く途中、北イタリアでソルフェリーノの戦いに遭遇しました。そこは、4万人近くの死傷者が出る激戦地でした。放置された死傷者の姿をみて、「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救わなければならない」との信念のもと、地元の女性たちの群れに入り、救援活動に参加しました。

1862年、その体験をもとに書いた「ソルフェリーノの思い出」が反響を呼び、1863年、赤十字国際委員会の前身となる5人委員会が誕生しました。



ボランティアをもって、献身的で専門的な救護団体を
作る方法はないものであろうか。

国際赤十字の元となった5人委員会(1863年設立)



アンリー・デュナン

ギュスタフ・モワニエ

アンリー・デュフル

ルイ・アッピア

テオドル・モノアール

ソルフェリーノの思い出 (1862年初版)



1864年8月22日
ジュネーブ条約調印式
国際赤十字の組織が誕生した場所
「ジュネーブ市役所アラバマルーム」



戦いを通じ、人の命と健康を尊び、平和を祈る・・・

表で見る日本赤十字社と国際赤十字の共通点

日本赤十字社



請願書に添えられた博愛社々則



田原坂の戦いの戦死者980人が眠る高月官軍墓地(玉東町)



博愛社の標章「赤の丸一」

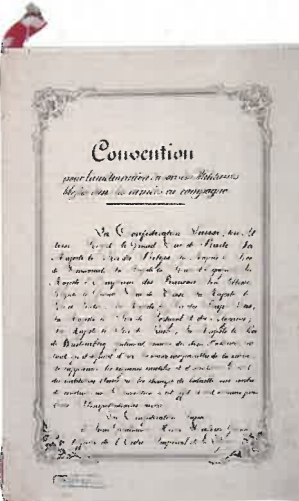


西南役戦没者慰霊之碑と広場(田原坂公園)



田原坂の戦いを今に語り伝える西南戦争資料館(田原坂公園)

国際赤十字



初のジュネーブ条約の表紙



ソルフェリーノの戦いの戦死者が眠るオサリオ納骨堂



赤十字マーク



ソルフェリーノの戦いを今に語り伝える赤十字博物館(イタリア カステリオーネ)

日本赤十字社

【共通ポイント】

国際赤十字

佐野 常民・大給 恒

創設者
不屈の精神

アンリー・デュナン

田原坂の戦い

きっかけ
戦争

ソルフェリーノの戦い

田原坂周辺

戦地
丘陵地を戦術に利用

ソルフェリーノの丘

正念寺・徳成寺など

負傷者の収容先
教会やお寺

キエザ・マジョーレ教会 など

人道・博愛(忠愛)

「大義を誤り、王師に敵すといえども、
皇国の人民たり、皇家の赤子たり。」
「敵人の傷者といえども
救える者はこれを救うべし。」

創設時の思想
人道・博愛

博愛・人道(兄弟愛)

「傷ついた兵士は
もはや兵士ではない。人間である。
人間同士として、その尊い生命は
救わなければならない。」

博愛社設立請願書

創設に使われた書状など
人道・博愛への願いを記した

ソルフェリーノの思い出

博愛社社則

設立規則
書式にてまとまる

ジュネーブ条約

西南役戦没者慰霊之碑
(田原坂公園)

戦死者の記念碑
戦地の近くに多くある

戦死者記念碑
(ソルフェリーノの塔屋上)

官軍・薩軍墓地

戦死者のお墓
のどかな景観地にひっそりと

オサリオ納骨堂

田原坂の弾痕の家

戦争時の建物
銃弾の跡が残る

ソルフェリーノの塔

田原坂崇烈碑 等

軍団記念碑
戦争の内容を伝える

ピエモンテ歩兵旅団記念碑

田原坂公園

記念広場
平和を祈る公園

赤十字広場
(ソルフェリーノ)

田原坂西南戦争資料館

資料館
戦争を今に語り伝える

赤十字博物館
(カステリオーネ)